



No. 103

新設図書館の紹介

環太平洋大学  
附属図書館

山畑 幸子



「環太平洋大学」。なぜ、このよ  
うな名称なのかと不思議に思われる

ことでしょうか。本学設置の背景には、「International Pacific University 構想」があります。環太平洋圏の若者に国際的な教育の機会を提供することを目的とし、一九八七年八月、ハワイで環太平洋各国の大学人や教育関係者によって話し合われました。この「IPU構想」の先駆けとして、一九九〇年、ニュージーランドにインターナショナル・パシフィック大学（IPC）を設立、次いで、今年四月に本学が開学いたしました。「挑戦と創造の教育」を建学の精神とし、「教育する者も教育されるものも共に成長しながら教える」という「共育」を教育活動の基本にしています。

自然が豊かで、明るくのびのびとした瀬戸の地に本学は位置しています。百段近い階段（別名、身体を鍛える試練の階段）のある緩やかで長い坂道を上ると、そこにキャンパスが広がり、三〇三名の元気な学生が賑やかな声が聞こえてきます。

本学は、日本初の次世代教育学部

（乳幼児教育学科・学級経営学科）と中四国初の体育学部（体育学科）を擁し、「教育と体育の融合」を基本理念とし、新しい時代を担い、次の未来を拓く教師と指導者の育成に取り組んでいます。

図書館は、全面ガラス張りのワンフロアです。木製の書架と机が並びとても和やかでアットホームな雰囲気です。カウンターのすぐ脇がゲートになっていますので、「おはようございます」「こんにちは」「失礼します」「ありがとうございました」と学生のほとんどが私たちに声をかけてくれ、私たち司書も「おはようございます」「お疲れ様でした」と学生に声をかけ応えます。学生たちへの挨拶から図書館の一日が始まり、また、学生たちへの挨拶で図書館の一日が終わると言っても過言ではないかもしれません。

時には、「この本のあとがきを読んでもみてください。感動しました。」と一言添えて返却する学生がいたり、カウンターに来て「歴史が好きなんです。サッカーが強い国の歴史に興味があるので、できればその国の歴史が分かる本を入れてください。」という学生がいたり、直に学生の声を聞くことがあります。それだけに、研究活動へのサポートというだけでなく、学生の読書への

の興味を大切にしながら、学生の身近な図書館としてどうあるべきか、



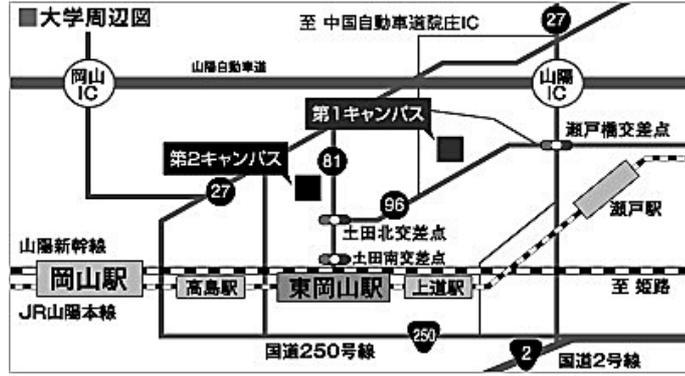
どうすれば図書館の利用につながる事ができるのか、私たち司書は身の引き締まる思いで試行錯誤しています。

歴史ある図書館に近づくにはまだまだかもしれないが、凛々しい佐々木宏子館長（乳幼児教育学科）のもと、司書二名で日々奮闘し頑張っています。

皆様のご指導とお力添えをいただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

○所在地  
岡山市瀬戸町観音寺七二一  
○電話番号

(〇八六) 九五八―〇二〇六  
 ○延べ床面積 九二六・五一㎡  
 ○蔵書冊数 三五〇〇冊  
 ○アクセス JR山陽本線 瀬戸駅より車で一〇分。東岡山駅から車で一〇分。※シャトルバス運行中。



(附属図書館は第一キャンパス)

## 丹笠地域の 図書館職員交流会

徳山佳代子 (笠岡市立図書館)

私たちの集まりである「図書館現

場友の会」は、一九九三年頃に始まりました。メンバーは岡山県の南西部の図書館司書が中心です。この頃の図書館は、半分以上の市町に設置されていましたが、その実態は寂しいもので、専任の司書が一名という図書館がほとんどでした。仕事上のことを相談する人もなく、孤軍奮闘で不安の多い職場だったことを覚えていいます。

私の場合、仕事をしていて一番の悩みは児童サービスでした。当時の県立図書館は児童サービスをしていなかったこともあり、児童サービスの研修はありませんでした。岡山市や倉敷市では、司書が集まって独自に研修会をされていることを聞いて、うらやましく思っていました。自館で研修することは小さい図書館では無理なので、私たちは県内県外を問わず、いろいろな研修に個人で出て向かいました。そんな折、ある司書の声かけにより、地域の司書が集まっていることを話そう！ということになりました。生の声を出したいため、現場で働く司書が中心で、会は始まりました。

この会は、近隣に図書館が新たに設置される度に、参加する人も増えました。また、公共図書館の司書だけでなく、元図書館員、学校図書館

司書など、異なる立場の人が集まるようになりました。最初はお店の部屋を借りることが多かったのですが、図書館で起こったトラブルや問題点を話す時などは、周りに他のお客様がいたり話にくいこともあり、最近では持ち回りで図書館に集まることが多くなりました。時には地元の仕事の方に参加していただき、お話を聞かせてもらったり、時には行事で使える簡単な工作の実践をしています。

いろいろなことが身につくのもいいことですが、会の一番いい点は、お互いの顔を知ることができることです。図書館に長く勤めている私ならば、怖いもの知らずで図々しい電話やお願いができるのですが、若い職員だと、相手の顔が見えないのは不安らしく、こういう場で顔見知りになるのはうれしいと言っていました。こんな時にどうしたらと思っても、自分の勤めている図書館や役所・役場には相談のつてくれる人がいません。また、自分の所属する図書館での運営方法を、他の図書館と比較することにより、いい部分を取り入れたり、見直しをしたりと、何かと助かることの多い会です。

会が始まった当初は、県内の近隣の図書館関係者だけの集まりだったのですが、ここ数年は、隣の広島県

福山市の図書館からも参加をいただいています。話題の幅も広がり、うれしく思っています。それぞれの県内の図書館サービスの実態などを知らることができ、驚いたり勉強になったりしています。また、福山市の方からは、広島県内の研修会の情報を教えていただくことも多く、近くでいろいろな研修会に参加することができ、ありがたく感じています。

最近に参加している図書館の閉館時間、館内整理日や休館日が図書館により異なってきたため、集まるのが大変になってきました。それでも勤務時間や勤務体制を調整して毎回ほとんどの図書館からの参加があります。誰かに言われて会を始めたのではなく、どうにかしたいという自分たちの思いがきっかけで会が始まりました。今まで続けてくることができました。二、三ヶ月に一回の集まりですが、これからも続けていきたいと思えます。思っていることを口にすだけでもストレス解消になるし、不安も少なくなります。そんな心のよりどころのような会でありたいと思います。同じ思いを持って仕事をしている仲間がたくさんいることに改めて気づかされます。心強い仲間存在をありがたく感じています。最初に、「図書館現場友の会」と書きましたが、この会には名前があ

りません。当初から、会の名前をどうするかという話は度々出ていたのですが、特に決めないまま現在にいたっています。いい名前がありましたら、教えてください。

## 図書館とボランティアの関わりについて

高橋 宏

(岡山県立図書館・情報ボランティア)

四十歳代にアメリカ南東部のある町に仕事で行った事があり、たまたま時間が取れ、市内見物の途中に図書館を訪ねました。その図書館には年配のボランティアがおられ子供の手や配架等を生き生きとしているのを見て、将来、時間の余裕が出来れば図書館でボランティアをしたいと思いました。総合文化センター時代にボランティアの受け入れを訊ねたところ、現在はないが新しく出来る図書館ではボランティアを募集する予定があると教えていただきました。定年退職後、県立図書館が開館し、情報ボランティアの募集がありましたので応募して現在に至っています。

県立図書館の開館前に、ボランティア活動についての規則、注意事項及び情報支援サービスについての

講習を受けた後、活動に入りました。現在、インターネットの操作が苦手な方を対象に検索のお手伝いをしたり、蔵書検索端末やAV資料の視聴申し込み、端末の操作補助、視聴覚資料の配架等を、他のボランティア仲間と共に、各自のボランティア活動登録時間内で行っています。また新しいデータベースや電子資料が入った時には、図書館の職員の方が多忙な中、講習会を開いて下さり、アクセスコーナーの利用者からの問い合わせに対応出来るようにしていただいています。ボランティアに対する図書館の支援には感謝しております。図書館利用者のお手伝いをさせていただいています。利用者の望むものがそれぞれ異なりますので、助言の内容を工夫しなければならぬ等大変勉強になります。この活動



【活動中の高橋さん(中央)】

では自分の考えを利用者に押し付けられないようにしていきたいと心掛けています。又、自分で判別出来ない事項については、いたずらに時間を取らせないように職員の方々の助言を求めるとしています。ボランティア活動で幅広い年齢層の方々のおお手をさせていただきますので、それぞれの方々から人生経験等を教わり有り難く思っています。特に、小学生を対象とした自由研究のお手伝いをさせていただいた時には、子供達の好奇心にあふれた目の輝き、向上心に触れる事ができ、私は子供達からパワーを一杯貰いました。ボランティアをしていてこのような素晴らしい機会を与えて下さった図書館に感謝しています。

♪おつきさまはえらいの かがみのようになつたり くしのようになつたり はる・なつ・あき・ふゆ にほんじゅうをてらす♪  
文庫の始まりはいつも「わらべうた」からです。私は鏡のようまんな丸のお月さまと櫛の形の三日月のペープサートを見せて唄います。赤ちゃんたちはお母さんのひざの上でゆつたりと揺れながら、幼稚園の子どもたちは「知つとるよ」「幼稚園でもうたつとる」と言いながら、一緒に唄ってくれます。

九月二十五日は中秋の名月。いつものように♪おつきさまはえらいの♪を二度繰り返すと、Yちゃんがすつと立ち上がって「踊れるよ。幼稚園で踊つとる」とRちゃんの手をとって二人で踊りを披露してくれました。なんて可愛らしいのでしょう。

## ☆個人会員の紹介☆

子どもたちと私をつなぐもの

(伊丹 弥生)

文庫えびみなんだす)



参加のお母さんからばちばちと拍手が……赤ちゃんも「なにがおきたの？」と周りを見ながら、小さな手で拍手をしてくれます。わらべうたを唄った後は絵本です。「今日は満月。一年中で一番お月さまがきれいです。夜お月さまを見てね」と話して、『つき』（山田和作 福音館書店）の満月のページを紹介し、『お月さまってどんなあじう』（ミヒヤエル・グレイニユク／絵と文 いずみちほこ／訳 セーラー出版）を読みました。

私の活動している「文庫えびみなんだす」は、岡山市の中心部にある大元公民館で月三回、火曜日午後に行われるわらべうた・読み聞かせ・折り紙や工作・絵本の貸出などを行っています。平成二年に活動を始めて以来、〈体験が大切〉を合言葉に絵本を中心に季節の行事も取り入れ、七夕祭りやお月見団子作りをしており、昨年参加した子どもたちは延べ九〇九人でした。

翌二十六日、プーさん図書館のスタッフでもある私は、庭瀬にある吉備小学校に出かけて行きました。一時過ぎ、子どもたちは給食を終えるといっせいに駆け込んできます。返却カウンターは長蛇の列。『番ねずみのヤカちゃん』はかえつとる？』『鬼太郎の妖怪の本は？』と人気が

本は返却される先から貸し出され、目の回るような忙しさです。

二十五分からはおはなしの時間。五十余人の子どもたちがぎゅうつと座っておはなしを待っています。「昨日の夜、月を見た人？まんまるだったよ」と声をかけると、「見た見た」「きれいだった」と返事が返ってきます。

そこで、おつきさまはえらいの、を唄いました。「くしって何じゃろ？」「髪をとく櫛じゃろ」としゃべっていた子ども、静かになり唄い終わるともう一度の声がかかりました。「みんなも覚えようね」と唄いはじめたその時、子どもたちと私はまるで一枚の空飛ぶ絨毯に乗っているような不思議な一体感に包まれました。そして、『お月さまってどんなあじう？』と『すてきな三にんぐみ』（トミー・アンゲラー／さく いまえよしと／訳 偕成社）を読み、『一四ひきのおつきみ』（いわむらかずお／さく 童心社）『かこさとし・ほしのほん三あきのほし』（かこさとし／著 偕成社）を紹介した間も不思議な時間は流れ、おはなしの時間が終わると一瞬でざわざわと現実に戻されたのです。

「絵本が好き、自分の子どもに読んでやりたい」と思った二十二年前。「こんなに面白いのに、自分だけ

じゃもつたいたい。みんなと一緒に楽しまなくちゃ！」と文庫を始めて十八年。たくさんのお母さんたち、お母さんたちと関わってきました。絵本を仲立ちにすると赤ちゃんは私を大好きになってくれます。また、文庫の子どもたちや小学生の人気者にもなれます。絵本を読むってすごいことだと改めて思います。本に助けられ、子どもたちに助けられ、聞き手と読み手は繋がっている……これは責任重大だぞと自分自身に言い聞かせながら、今日も「何、読もうかな」と子どもたちに会いに出かけて行きます。



### ☆企画委員の紹介☆

副委員長 折橋美保子

(くらしき作陽大学)

作陽短期大学附属図書館

私が就職活動をしていたのは、ちょうど二トやフリーターの話題がメディアで頻繁に取り上げられ始めた頃でした。司書になりたいという気持ちはあったものの、就職難や司書採用試験の倍率の高さに半ば諦めていました。そういった状況でしたので、図書館に勤められることが決まった時の嬉しさはひとしおでした。

勤め始めて二年目、企画委員になることになりました。「企画委員って何だろう？ こんなペーペーの私でいいのか？」と不安ばかりで、初めての企画委員会の席では恐る恐る自己紹介したのを覚えています。普段、学生ばかりを相手にしていますので、企画委員会で何う公共図書館の現状等とはとても興味深く、刺激的です。そういったお話をみやげに持って帰るだけでなく、自分も何か残せるような発言ができればいいなあと思いつつ、毎回話し合いに参加しています。

「司書になれてラッキー」だけでなく、今では「企画委員になれてラッキー！」と感じています。貴重

なラッキーを十分に活かしていきたく  
と思います。

#### 企画委員 高杉敬子

(岡山市立中央図書館)

昨年度より企画委員をさせていただいて  
おります。

会議では普段あまりお付き合いのない  
大学図書館や離れた地域の司書の方と  
話ができて、色々勉強になります。講  
座や研修会を決めるにあたっては、過  
去に実施したものを参考にさせていただ  
いていますが、内容も「指定管理者制  
度について」「個人情報保護法について  
」等、時代とともに図書館を取り巻く  
環境が変わってきていることがうかが  
えます。少しでも皆様のご要望に沿え  
るようにと考えながら意見を出し合っ  
ています。今図書館では何が課題にな  
っているのか? どういうことが求めら  
れているのか? アンテナを立てて必要  
な情報をキャッチし、少しでもお役に  
立てるよう残りの任期を務めてまい  
りたいと思いますので、どうぞよろし  
くお願いいたします。

#### 企画委員 三宅織絵

(倉敷市立玉島図書館)

倉敷市立図書館では企画委員担当  
は年齢順にまわってきていまして、

今回、お役目を仰せつかった時、  
「ああ、私もいつの間にかそんなベ  
テランに…(泣)」と複雑な心境で  
した。いろいろな館種の図書館の方  
たちと話し合う機会というのはあま  
りないので、研修内容や会報の紙面  
構成を考えていくなかで、意外な発  
見があったり、参考になるお話を聞  
けることも多く、いい勉強をさせて  
いただきました。

現在の図書館界をとりまく環境は  
かならずしも楽観的なものではなく、  
報われないことも多い毎日ですが、  
委員会にでた後はちよっぴり元気を  
もらって帰ることができて、ありが  
たく思っています。

#### 企画委員 三宅康栄

(赤磐市立中央図書館)

合併からようやく一年がすぎよう  
としてやっと落ち着きかけていた平  
成十八年三月のある日、企画委員の  
お話がまいこんできました。講座・  
イベント等の企画大好き人間の私は  
企画委員の仕事内容を満足に把握し  
ないまま浅はかにも受けてしまいま  
した。

そしてはじめての会議の日に「こ  
れは違う…」と自分の考えの甘さ  
に内心愕然としてしまったのですが、  
館種や経験年数また年齢も違う他  
委員の方々の話を聞くなかで、自分

自身も勉強しながら委員としての仕  
事をさせていただいています。

企画委員の仕事は、主催の研修や  
講座・講習会などの企画、会報の編  
集が中心です。そして、これらは公  
共や学校図書館の関係者だけでなく  
さまざまな立場の図書館協会の会員  
の方が対象となるものです。

会議では、そのような多様な立場  
の方々に関心を持っていただけると  
面構成や講座内容にするため、毎回  
熱心に検討を重ねました。

吉信委員長の進行で会議は進めら  
れ、さまざまな意見や要望が次々と  
出ていきましたので、それを実際にま  
とめて形にされた事務局の方は大変  
だったことと思います。

残りの任期もわずかになりました  
が、会員の方々により充実した研修  
の機会や親しみを持っていただけ  
る会報の提供ができるように努めたい  
と考えています。

今後ともよろしくお願いいたしま  
す。

#### 企画委員 宿野雅世

(美作市立作東図書館)

昨年の四月、企画委員に二年の任  
期で任命されました。

私にできるのだろうかと思いつつ、  
年三回の企画委員会に参加し、数々  
の研修会等の企画をする時、委員の

皆さんはいろんな情報を持っておら  
れることに感心し、またその企画し  
たものを実行に移される事務局の  
方々は本当に大変だと思いました。

また、普段は近隣の図書館との交  
流はほとんどなかったもので、県内の  
公立図書館や大学図書館の司書の方  
のいろいろなお話を聞くことができ、  
とても勉強になりました。ありがと  
うございました。

任期最後の企画委員会で岡山県内  
の市町村図書館の目指す方向を考え  
ていくという大きな課題があります。  
自分のできる範囲で企画委員の一員  
として取り組んでいきたいと思いま  
す。

#### 企画委員 酒井由美恵

(鏡野町立図書館)

二年間、大変お世話になりました。  
企画委員会では、会報の内容や研修  
会・講習会の企画を話し合う中で、  
他の図書館の方とお話ができ貴重な  
体験ができました。

会報の内容を決める時は、多くの  
記事で楽しい会報になるようにと、  
ほとんど意見が出ていました。研修  
会や講習会の企画は、日頃の仕事  
の中で気になっていたりことや自分  
が行ってみたいようなテーマを出  
し合い決めていきました。指定管理  
者のこと、資料の保存方法のことな

さまざまな意見が出るなかで、勉強したいことが実際に研修会となり参加できました。研修の内容だけでなく、開催する曜日や開催場所についての意見も取り入れていただき、参加しやすい研修を考えていただけるともよかったです。

他の図書館との情報交換ができ、図書館職員として目を向けていきたいことをみんなで話し合えた充実した時間でした。事務局の方々には、私達の意見を実現してくださり、ありがとうございました。

#### 企画委員 妹尾真理子

(矢掛町立図書館)

企画委員として参加していますが、あまり意見も言えず他の委員さんのアイデアに、なるほどとうなずくことばかり。でも、会報が届くとじっくりと読み(なかなか良い内容だわ)と満足しています。特に先輩方の図書館に対する熱い思いが綴られている会報は何度も読み力をいただいています。また、普段触れ合うことのできない県内の図書館の取り組みや現況を知ることができ、この会報で様々なことを学んでいます。これも内容をまとめてくださる事務局の方々の努力のおかげだと感謝しています。

余談ごとですが、今回の委員さん

に知っている方がいて懐かしさがこみ上げてきました。彼女が積極的に意見を述べる姿を見て頼もしく、また、素敵な女性に成長していることを嬉しく思いました。

最後に、会報「岡山のとしよかん」のファンとしてこの企画に携わることができ感謝しております。百号を超えた歴史ある会報。これからも、県内の図書館の歴史を紡ぐ会報として続くことを願っています。

#### 企画委員 小川政保

(新見公立短期大学図書館)

私は中学時代図書委員会に入っていました。昼休み、騒々しい雰囲気の中、カウンター当番をやった思い出があります。その時代の貸出は現在のようにバーコードを読み取るのではなく、本の後ろに入っているブックカードに名前を書くやり方でした。個人情報保護が言われている今の時代から思うと考えられません。が、当時はササツと記入していました。

おとしし中学時代の同窓会があり、校舎見学を企画し、同級生が久しぶりに、しかも母校で会い、それだけでも十分懐かしさがこみ上げてきたのですが、図書室に行ったとき、その状況にとどめをさすものを発見しました。中学生の頃、天気の良い日

に家の屋根の上で読んだ思い出のある「坊ちゃん」を見つけ、何気なく後ろのブックカードを確認してみると、そこには中学時代の私が書いたのである私の名前が残っていました。鉛筆なのに消えもせず。ちょっと感動しました。ブックカードもいものだなと思いました。

時はたち、現在の私は大学図書館に勤務させていただいています。しかも、企画委員会にも出席させていただいています。九月の第一回委員会で、文科省の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や、山口県の「やまぐち二〇一〇年の図書館像」などを参考に、岡山県としても「目指すべき図書館像」のようなものを明文化したい、というお話がありました。文章表現はいろいろあるとは思いますが、やはり一番大切なのは、子どもからお年寄りまで誰でも気兼ねなく利用でき、相談でき、知りたい、学びたい、読みたい気持ちに応援していくことかな、と思ったりしています。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 岡山県図書館協会活動報告

#### ①講習会のご案内

○製本講習会 二月開催予定  
講師はキハラ(株)を予定しています。

#### ②新会員紹介 (施設会員)

美咲町立中央図書館

(個人会員)

山畑幸子(環太平洋大学附属図書館)

山川隆之(吉備人出版)

#### ●会費の納入について●

今年度の会費の納入はお済みでしょうか。

未納の方は、早急にお納めくださいますようお願いいたします。

#### 振込先

中国銀行県庁支店

普通預金 一三九二三六九

「岡山県図書館協会

事務局長 小林康広

平成十九年十一月三十日

〒七〇〇一〇八二三

岡山市丸の内二一六―三〇

岡山県立図書館

メディア・協力課 図書館協力班内

岡山県図書館協会

会長 渡 辺 真 道

(〇八六)一三二四―一二六九